

生薬の形態学的研究一覧 (1)

田中俊弘^{a)}, 大場幸次^{b)}

岐薬紀要 (1993) 42 : 32-44

要約 : 1971年以降の日本における約262の形態学的研究を収集した。過去21年間に次のような幅広い分野における研究成果が報告された : 生薬の基原の解明, 組織学的分類研究 ; 各国の天然薬物資源の開発 ; 走査電子顕微鏡を用いた研究 ; 高周波酸素プラズマによる低温灰化法すなわち生薬組織中の結晶などの観察 ; 軟X線を用いた生薬の品質評価に関する基礎研究 ; 製剤中の生薬の顕微鏡鑑定など。これらの文献を生薬ごとに分類してリストを作成した。

索引用語 : 形態学的研究, 生薬学的研究, 組織学的分類, 顕微鏡鑑定, 生薬

A List of the Morphological Studies on Crude Drugs (1)

TOSHIHIRO TANAKA^{a)}, KOJI OHBA^{b)}

Ann. Proc. Gifu Pharm. Univ. (1993) 42 : 32-44

Abstract : About 262 literatures of the morphological studies on crude drugs in Japan after 1971 were collected. In this last twenty one years, these studies covered a wide area, and the following reports were found : studies on the elucidation of origin and the histotaxonomy of crude drugs ; development of natural medicinal resources from various countries ; studies with the scanning electron microscopy ; low-temperature ashing method with high-frequency oxygen plasma, that is, observation of crystals in crude drug tissue ; fundamental studies on the evaluation of crude drugs with soft X-ray ; microscopic identification of crude drugs in their preparations, and the like. We made a list of literatures, which were grouped into each crude drug name.

Keyphrases : morphological study ; pharmacognostical study ; histotaxonomy ; microscopic identification ; crude drug

わが国では昔から生薬の形態, とくに内部構造および組織に関する報告は, 数多くの文献に発表されている。この分野の研究に従事する者にとって過去の研究状況を把握することは必須の要件である。最近, 漢方・生薬製剤を取り扱う製薬会社などでは, 原料生薬の品質鑑定能力のある生薬管理責任者を設置することが義務づけられ, 従来の理化

a) 岐阜薬科大学薬草園研究室, 岐阜市三田洞東5丁目6-1

b) アスゲン製薬株式会社, 名古屋市東区泉二丁目28-8

a) Laboratory of Herbal Garden, Gifu Pharmaceutical University, 6-1, Mitahora-higashi 5 chome, Gifu 502

b) Asgen Pharmaceutical Co., LTD., 28-8, Izumi 2 chome, Higashi-ku, Nagoya 461

Received February 28, 1993

The Annual Proceedings of Gifu Pharmaceutical University,

ISSN 0434-0094, CODEN : GYDYA 9

学的品質管理に加え、形態学的品質管理が重要視されはじめた^{1,2)}。この形態学的品質管理は、基原の明確になった生薬との比較や既に発表された文献記載の鏡検図などとの比較によって行われるため、この領域の文献を調査することが肝要である。コンピュータが発達した今日、各種データベースを利用することにより、現在までの研究状況を調査することは原理的には可能であるが、現実的にはすべての文献を検索することは不可能といってもよい。

以前、東 丈夫らは、1921年から1971年初めまでの約50年間に発表された文献を「生薬学的研究一覧」³⁾としてまとめているが、これは当時の研究状況を推察する上では非常に便利な資料である。これ以後に発表された文献についても同様な資料があれば研究者および生薬管理責任者にとっては好都合である。

このようなことから上記の資料「生薬学的研究一覧」以後の約21年間に発表された生薬の形態学的研究に関する報告について生薬学雑誌、植物研究雑誌および薬学雑誌を中心に調査して文献リストを作成し、今後の研究あるいは形態学的品質管理のための参考に供した。リスト作成にあたってはできるだけ生薬あるいは関連研究ごとにまとめ、それぞれの項目の順に列記した。

なお、生薬の基原などを解明するために重要な本草文献学的考察に関する報告および外国文献、とくに中国発行の雑誌も今回の調査対象にしたが、これらについては今後そのリストを作成して発表する予定である。本調査にあたり、格別な御助言を賜った徳島大学薬学部の村上光太郎先生に深謝する。

1. 植物性生薬

1-1 威霊仙, 1-2 茵陳蒿, 1-3 王不留行, 1-4 黄連・黄柏, 1-5 葛花, 1-6 桂皮, 1-7 厚朴, 1-8 地丁, 1-9 地膚子・羌蔚子, 1-10 沈香, 1-11 車前草, 1-12 川芎, 1-13 側柏葉, 1-14 続断, 1-15 大黃, 1-16 竹葉, 1-17 党参, 1-18 人参葉, 1-19 麦門冬, 1-20 百合, 1-21 覆盆子, 1-22 蒲公英, 1-23 狼毒・大戟, 1-24 鹿蹄草, 1-25 フウロソウ属・ゲンノショウコ, 1-26 *Adiantum* 属, 1-27 *Scopolia* 属, 1-28 レンギョウ属, 1-29 コショウ科, 1-30 台湾産ラン科生薬, 1-31 北海道産生薬, 1-32 日本民間薬, 1-33 中国四川省民間薬, 1-34 台湾産生薬, 1-35 韓国産生薬, 1-36 東南アジア生薬, 1-37 ブラジル・ネパール生薬, 1-38 花粉, 1-39 生薬組織中の結晶, 1-40 その他各種生薬

2. 動物性生薬

2-1 貝類生薬, 2-2 昆虫類生薬

3. 生薬製剤鑑定

3-1 粉末生薬, 3-2 製剤中の生薬鑑定

1. 植物性生薬

1-1 威霊仙: [1-1-1] Pharmacognostical Studies on the *Clematis* Plants and Related Crude Drugs (I) Histological Studies on the Roots of *Clematis terniflora* DC. var. *robusta* (CARR.) TAMURA and “Wei-ling-xian (威霊仙)” from Japan, Tsuneo Namba and Masayuki Mikage, 生薬学雑誌, 37 (4), 307 (1983); [1-1-2] Pharmacognostical Studies on the *Clematis* Plants and Related Crude Drugs (II) On the Botanical Origin of “Wei-ling-xian (威霊仙)” from Taiwan and Liang-guang, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 37 (4), 317 (1983); [1-1-3] Pharmacognostical Studies on the *Clematis* Plants and Related Crude Drugs (III) On “Wei-ling-xian (威霊仙)” from Korean Peninsula, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 37 (4), 325 (1983); [1-1-4] *Clematis* 属植物とその関連生薬の研究 (第4報) 中国東北部産「威霊仙」の基原植物について, 御影雅幸, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 37 (4), 334 (1983); [1-1-5] *Clematis* 属植物とその関連生薬の研究 (第5報)

台湾中部産および福建省産「威霊仙」の基源植物について, 御影雅幸, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **37**(4), 342 (1983); [1-1-6] *Clematis* 属植物とその関連生薬の研究 (第8報) *Clematis uncinata* および近縁種の地上部に由来する「威霊仙」, 御影雅幸, 中島由仁, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **44**(1), 21 (1990)

1-2 茵陳蒿: [1-2-1] 日本産茵陳蒿の生薬学的研究 (第1報) 市販茵陳蒿について, 難波恒雄, 奥野 勇, 故 高橋真太郎, 故 岡西為人, 生薬学雑誌, **28**(2), 139 (1974); [1-2-2] 日本産茵陳蒿の生薬学的研究 (第2報) カワラヨモギとハマヨモギの頭状花序について, 故 岡西為人, 奥野 勇, 赤堀 昭, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **28**(2), 145 (1974); [1-2-3] 日本産茵陳蒿の生薬学的研究 (第4報) オトコヨモギとハマオトコヨモギの頭状花序について, 奥野 勇, 故 岡西為人, 野呂 征男, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **34**(3), 182 (1980); [1-2-4] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “inchinko (茵陳蒿)” in Japan (V) Morphological Studies on the Flower Heads of Japanese *Artemisia*, Tsuneo Namba, Isamu Okuno and Yukio Noro, 生薬学雑誌, **36**(4), 325 (1982); [1-2-5] 北茵陳の基源植物およびその関連生薬の利胆作用, 奥野 勇, 内田清久, 御影雅幸, 宝田さよ子, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **37**(3), 285 (1983); [1-2-6] 韓国産茵陳蒿の生薬学的研究, 難波恒雄, 御影雅幸, 小松かつ子, 宝田さよ子, 奥野 勇, 生薬学雑誌, **38**(3), 264 (1984)

1-3 王不留行: [1-3-1] 漢薬「王不留行」の生薬学的研究 (第2報) 台湾産「王不留行」について (I), 難波恒雄, 林 俊清, 生薬学雑誌, **34**(1), 38 (1980); [1-3-2] 漢薬「王不留行」の生薬学的研究 (第3報) 台湾産「王不留行」について (II), 難波恒雄, 林 俊清, 生薬学雑誌, **34**(1), 50 (1980)

1-4 黄連・黄柏: [1-4-1] ネパール産黄連の組織学的研究, 新田あや, 吉岡正子, 木島正夫, 生薬学雑誌, **30**(1), 72 (1976); [1-4-2] A Botanical Origin and Berberine Content of Indo-obaku (*Berberis asiatica*), Mizuo Mizuno, Toshihiro Tanaka, Tsuneo Namba and Shintaro Takahashi, 生薬学雑誌, **39**(1), 71 (1985); [1-4-3] 生薬の品質評価に関する基礎研究 (第10報) 電子顕微鏡による生薬分析 その2 黄連及び黄柏組織中のアルカロイドの分布, 御影雅幸, 牛山つや子, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **107**(9), 690 (1987); [1-4-4] 生薬資源の研究 (第2報) 中国産黄連の組織形態とベルベリン型アルカロイド組成について, 米田諒典, 山形悦子, 華 龍津, 水野瑞夫, 生薬学雑誌, **42**(2), 116 (1988)

1-5 葛 花: [1-5-1] 漢薬・葛花の生薬学的研究 (第1報), 久保道德, 勝城忠久, 長尾孝治, 水野瑞夫, 大橋広好, 生薬学雑誌, **31**(2), 136 (1977); [1-5-2] 漢薬・葛花の生薬学的研究 (第2報) 花粉形態について, 瀧 和子, 山崎 太, 水野瑞夫, 久保道德, 生薬学雑誌, **31**(2), 145 (1977)

1-6 桂 皮: [1-6-1] ケイヒ類生薬に関する研究 (第2報) シンガポール市場のケイヒ その1, 吉田集而, 新田あや, 木島正夫, 生薬学雑誌, **94**(10), 1337 (1974); [1-6-2] ケイヒ類生薬に関する研究 (第3報) メダン市場のケイヒ, 吉田集而, 新田あや, 木島正夫, 生薬学雑誌, **94**(10), 1344 (1974); [1-6-3] ケイヒ類生薬に関する研究 (第5報) *Cinnamomum burmanni* Bl. の樹皮の内部形態における変異について, 吉田集而, 新田あや, 生薬学雑誌, **96**(12), 1385 (1976); [1-6-4] ケイヒ類生薬に関する研究 (第6報) ジャワ島各地の市場品について その1, 吉田集而, 新田あや, 生薬学雑誌, **96**(12), 1393 (1976); [1-6-5] ケイヒ類生薬に関する研究 (第8報) ベトナム産ケイヒについて, 新田あや, 生薬学雑誌, **104**(3), 261 (1984); [1-6-6] ケイヒ類生薬に関する研究 (第9報) 台湾産ケイヒならびに台湾市場品について, 新田あや, 生薬学雑誌, **105**(3), 256 (1985); [1-6-7] スリランカにおける天然薬物資源の研究 (第1報) セイロン桂皮の各等級における内部形態の特徴および精油成分の差異, 難波恒雄, 菊池 徹, 御影雅幸, 門田重利, 小松かつ子, 清水岑夫, 富森 毅, 生薬学雑誌, **41**(1), 35 (1987); [1-6-8] 生薬の品質評価に関する基礎研究 (第9報) 軟X線による生薬分析 その1 セイロン桂皮の X線顕微鏡像による品質評価, 御影雅幸, 小松かつ子, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **107**(3), 192 (1987)

1-7 厚 朴: [1-7-1] Pharmacognostical Studies on the *Magnolia* Bark (I) A Preliminary Study on the Annual Ring-like Structure in the Bark of *Magnolia*, Hiroko Shimomura, Yutaka Sashida, Zhongzhen Zhao,

Hiroko Tokumoto and Hiroaki Kobayashi, 生薬学雑誌, 42(3), 220 (1988); [1-7-2] Pharmacognostical Studies on the *Magnolia* Barks(2) Morphological and Histological Studies of Crude Drug “Hou po”(Cortex Magnoliae), Hiroko Shimomura, Yutaka Sashida, Z.Z. Zhao, Hiroko Tokumoto and X.J. Tang, 生薬学雑誌, 43(2), 148 (1989); [1-7-3] Pharmacognostical Studies on the *Magnolia* Bark(4) Morphological and Histological Studies on the Bark of *Magnolia rostrata* W.W. SMITH and *M. grandiflora* L., Zhongzhen Zhao, Yutaka Sashida, Xiao jun Tang, Hiroko Tokumoto and Hiroko Shimomura, 生薬学雑誌, 45(3), 190 (1991)

1-8 地 丁：[1-8-1] 漢薬「地丁」の生薬学的研究(第1報) 日本産 *Viola* 属の組織分類学的研究, 難波恒雄, 布目慎勇, 生薬学雑誌, 36(1), 17 (1982); [1-8-2] 漢薬「地丁」の生薬学的研究(第2報) 日本産 *Viola* 属の組織分類学的研究(2), 難波恒雄, 布目慎勇, 生薬学雑誌, 36(1), 23 (1982); [1-8-3] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Diding(地丁)”(Part III) Histo-Taxonomical Studies of *Viola* spp. from Japan(3), Tsuneo Namba and Shinyu Nunome, 生薬学雑誌, 36(3), 261 (1982); [1-8-4] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Diding(地丁)”(Part IV) Histo-Taxonomical Studies of *Viola* spp. from Japan(4), Shinyu Nunome and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 37(2), 134 (1983); [1-8-5] 漢薬「地丁」の生薬学的研究(第5報) 日本産 *Viola* 属の組織分類学的研究(5), 布目慎勇, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 37(2), 149 (1983); [1-8-6] 漢薬「地丁」の生薬学的研究(第6報) *Viola* 属を基源とする市販地丁の原植物について, 布目慎勇, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 37(3), 209 (1983); [1-8-7] 漢薬「地丁」の生薬学的研究(第7報) 華南地丁の原植物について, 布目慎勇, 稲垣建二, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 37(4), 381 (1983); [1-8-8] 漢薬「地丁」の生薬学的研究(第8報) *Polygala* 属, *Osbeckia* 属および *Corydalis* 属を基源とする市販地丁の原植物について, 布目慎勇, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 38(1), 19 (1984)

1-9 地膚子・芫蔚子：[1-9-1] 「地膚子」および「芫蔚子」の生薬学的研究(第1報) *Leonurus* 属植物基源の商品について, 難波恒雄, 御影雅幸, 小松かつ子, 生薬学雑誌, 36(1), 6 (1982); [1-9-2] 「地膚子」および「芫蔚子」の生薬学的研究(第2報) *Chenopodiaceae* 植物由来の「地膚子」について, 難波恒雄, 御影雅幸, 小松かつ子, 生薬学雑誌, 39(3), 190 (1985)

1-10 沈 香：[1-10-1] 沈香の研究(第2報) 原植物 *Aquilaria malaccensis* LAM. の内部形態について, 嶋田康男, 清沢 脩, 生薬学雑誌, 38(4), 313 (1984); [1-10-2] 沈香の生薬学的研究(第2報) 中国産沈香について, 米田該典, 山形悦子, 水野瑞夫, 生薬学雑誌, 40(3), 259 (1986)

1-11 車前草：[1-11-1] Pharmacognostical Studies on Plantaginis Herba. On the Morphology of the Pollen Grains, Mizuo Mizuno, Futoshi Yamazaki and Toshihiro Tanaka, 生薬学雑誌, 33(2), 88 (1979); [1-11-2] 車前草の生薬学的研究(第2報) 日本産 *Plantago* の葉の形態について, 田中俊弘, 水野瑞夫, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 36(2), 107 (1982); [1-11-3] 車前草の生薬学的研究(第3報) 日本産 *Plantago* の根茎と根の形態について, 田中俊弘, 水野瑞夫, 生薬学雑誌, 37(3), 248 (1983); [1-11-4] Pharmacognostical Studies of Plantaginis Herba(4) Morphological Comparison of Japanese *Plantago*'s Seed, Toshihiro Tanaka, Sumi Ito and Mizuo Mizuno, 生薬学雑誌, 38(1), 1 (1984); [1-11-5] 車前草の生薬学的研究(第6報) 北海道産 *Plantago major* の形態について, 鄭 太坤, 田中俊弘, 酒井英二, 吉田将士, 松尾和人, 生薬学雑誌, 44(3), 145 (1990); [1-11-6] 車前草の生薬学的研究(第8報) 中国産オオバコ属植物の根の形態について, 鄭 太坤, 田中俊弘, 酒井英二, 康 廷国, 生薬学雑誌, 45(2), 93 (1991); [1-11-7] 車前草の生薬学的研究(第9報) 中国産車前草について, 田中俊弘, 酒井英二, 西部三省, 笠原道子, 鄭 太坤, 生薬学雑誌, 46(3), 235 (1992)

1-12 川 芎：[1-12-1] 日本産川芎の基原植物に関する研究(第1報) *Angelica* 属について, 石 貴徳, 新田あや, 木

島正夫, 薬学雑誌, **94**(7), 865 (1974); [1-12-2] 日本産川芎の基原植物に関する研究(第2報) *Ostericum* 属について, 石 貴徳, 新田あや, 木島正夫, 薬学雑誌, **94**(10), 1246 (1974); [1-12-3] 日本産川芎の基原植物に関する研究(第3報) *Dystaenia* 属について, 石 貴徳, 新田あや, 木島正夫, 薬学雑誌, **94**(10), 1251 (1974); [1-12-4] 日本産川芎の基原植物に関する研究(第4報) *Ligusticum* 属および *Tilingia* 属について, 石 貴徳, 新田あや, 木島正夫, 薬学雑誌, **94**(10), 1257 (1974); [1-12-5] 日本産川芎の基原植物に関する研究(第5報) *Conioselinum* 属について, 石 貴徳, 新田あや, 木島正夫, 薬学雑誌, **94**(10), 1265 (1974); [1-12-6] 日本産川芎の基原植物に関する研究(第6報), 石 貴徳, 新田あや, 木島正夫, 薬学雑誌, **94**(10), 1270 (1974)

1-13 側柏葉: [1-13-1] 側柏葉の生薬学的研究(第1報) *Thuja orientalis* L. およびその類似植物に由来する商品について, 御影雅幸, 矢川久子, 吉崎正雄, 木村康一, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **38**(4), 327 (1984); [1-13-2] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Ce bai ye (側柏葉)” (II) On the Botanical Origin of “Ce bai ye” on Hong Kong Market, Masayuki Mikage, Paul Pui-Hay But, Sam-Man Fong and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, **41**(3), 161 (1987); [1-13-3] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Ce bai ye” (III) On the Botanical Origin of “Ce bai ye” from Taiwan, Masayuki Mikage, Hiromi Ohtsubo and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, **42**(2), 125 (1988)

1-14 統 断: [1-14-1] 漢薬・統断の生薬学的研究(第1報) 中国産統断について, 難波恒雄, 久保道徳, 故高橋真太郎, 生薬学雑誌, **25**(2), 65 (1971); [1-14-2] 漢薬・統断の生薬学的研究(第2報) 四国産和統断の基原植物について(1) *Cirsium japonicum* DC. の内部構造と生育環境との相関性, 難波恒雄, 久保道徳, 生薬学雑誌, **26**(1), 1 (1972); [1-14-3] 漢薬・統断の生薬学的研究(第3報) 四国産和統断の基原植物について(2) *Cirsium japonicum* DC. の変種の内部構造について, 久保道徳, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **26**(2), 103 (1972); [1-14-4] 漢薬・統断の生薬学的研究(第4報) 四国産和統断の基原植物について(3), 難波恒雄, 久保道徳, 生薬学雑誌, **26**(2), 109 (1972); [1-14-5] 漢薬・統断の生薬学的研究(第5報) 長野県産和統断の基原植物について(1), 難波恒雄, 久保道徳, 生薬学雑誌, **26**(2), 121 (1972); [1-14-6] 漢薬・統断の生薬学的研究(第6報) 長野県産和統断の基原植物について(2), 久保道徳, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **27**(2), 68 (1973); [1-14-7] 漢薬・統断の生薬学的研究(第7報) 静岡県産和統断の基原植物について, 久保道徳, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **27**(2), 76 (1973); [1-14-8] 漢薬・統断の生薬学的研究(第8報) 群馬県産和統断の基原植物について, 久保道徳, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **27**(2), 81 (1973)

1-15 大 黄: [1-15-1] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Da-huang” (大黃, Rhubarb) (I) Botanical Origin of the Official Da-huang, Z.-C. Lou, X. Wang, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, **42**(4), 291 (1988); [1-15-2] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Da-huang” (大黃, Rhubarb) (II) Botanical Origin of Three Unofficial Da-huang, X. Wang, Z.-C. Lou, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, **42**(4), 302 (1988); [1-15-3] 大黃の生薬学的研究(第3報) 中国の民間で使用される *Rheum* 属植物について(その1), 難波恒雄, 王 璇, 御影雅幸, 楼 之岑, 生薬学雑誌, **43**(2), 109 (1989); [1-15-4] 大黃の生薬学的研究(第4報) ある種の *Rheum* 属植物の根茎に見られる錦紋ならびにトコロ状導管について, 楼 之岑, 王 璇, 御影雅幸, 難波恒雄, 植物研究雑誌, **64**(4), 97 (1989)

1-16 竹 葉: [1-16-1] 竹葉およびタケ科植物の生薬学的研究(I) 中国産淡竹葉について, 難波恒雄, 褰 基煥, 赤井香子, 生薬学雑誌, **34**(4), 280 (1980); [1-16-2] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Zhu-ye(竹葉)” and the Bambusaceous Plants(II) On the Botanical Origins of the Crude Drug “Wa-no-tan-chiku-yo(和淡竹葉)” on the Japanese Markets and the Crude Drug “Juk-yeup(竹葉)” on the Korean Markets, and the

Comparative Anatomical Studies on the Leaves of the Genus *Phyllostachys*, Tsuneo Namba and Ki Hwan Bae, 生薬学雑誌, 35(1), 43 (1981); [1-16-3] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Zhu-ye(竹葉)” and the Bambusaceous Plants(III) On the Botanical Origins of the Crude Drug “Juk-yeup(竹葉)” on the Korean Markets(2) and the Comparative Anatomical Studies of the Leaves of the Genera *Sasamorpha* and *Pseudosasa*, Ki Hwan Bae and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 35(2), 78 (1981); [1-16-4] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Zhu-ye(竹葉)” and the Bambusaceous Plants(IV) On the Botanical Origins of the Crude Drug “Juk-yeup(竹葉)” on the Korean Markets(3) and the Comparative Anatomical Studies of the Leaves of the Genus *Pleioblastus*, Ki Hwan Bae and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 35(3), 180 (1981); [1-16-5] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Zhu-ye(竹葉)” and the Bambusaceous Plants(V) The Comparative Anatomical Studies on the Leaves of the Genera *Semiarundinaria*, *Sinobambusa*, *Shibataea*, *Tetragonocalamus* and *Chimonobambusa*, Tsuneo Namba and Ki Hwan Bae, 生薬学雑誌, 35(3), 205 (1981); [1-16-6] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Zhu-ye(竹葉)” and the Bambusaceous Plants(VI) The Comparative Anatomical Studies on the Leaves of the Genera *Bambusa* and *Dendrocalamus*, Tsuneo Namba and Ki Hwan Bae, 生薬学雑誌, 36(1), 32 (1982); [1-16-7] 竹葉およびタケ科植物の生薬学的研究(VII) 日本市場の「クマザサ(隈笹・熊笹)」の基源植物およびササ属(チマキザサ節, チシマザサ節, アマガザサ節およびナンブスズ節)の葉の内部および表面の構造について, 難波恒雄, 斐基煥, 生薬学雑誌, 36(1), 43 (1982); [1-16-8] 竹葉およびタケ科植物の生薬学的研究(VIII) アズマザサ属およびササ属のミヤコザサ節の葉の内部および表面の構造について, 斐基煥, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 36(1), 55 (1982); [1-16-9] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Zhu-ye(竹葉)” and Bambusaceous Plants(IX) Keys for Identification of the Leaves of Bambusaceous Plants Based on the Anatomical Characteristics, Tsuneo Namba and Kihwan Bae, 生薬学雑誌, 38(2), 187 (1984)

1-17 党参: [1-17-1] *Codonopsis* 属植物の生薬学的研究(第1報) *Codonopsis* 節に属する植物の根の形態, 難波恒雄, 小松かつ子, 岩井正憲, 徐国鈞, 生薬学雑誌, 46(2), 156 (1992); [1-17-2] *Codonopsis* 属植物の生薬学的研究(第2報) *Codonopsis* 節植物に由来する中国産「党参」および関連生薬の基源, 難波恒雄, 小松かつ子, 岩井正憲, 生薬学雑誌, 46(2), 165 (1992); [1-17-3] *Codonopsis* 属植物の生薬学的研究(第3報) *Erectae* 節植物に由来する中国産「党参」の基源について(I), 岩井正憲, 小松かつ子, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 46(3), 217 (1992); [1-17-4] Pharmacognostical Studies on the *Codonopsis* Plants(4) On the Botanical Origin of the Chinese Crude drug “Dangshen(党参)” Derived from the Plants of Sect. *Erectae* (II), Masanori Iwai, Katsuko Komatsu and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 46(4), 358 (1992)

1-18 人参葉: [1-18-1] 「人参葉」の生薬学的研究(第1報) *Panax ginseng* C.A. MEYER に由来する市場品, 難波恒雄, 御影雅幸, 蔡少青, 楼之岑, 生薬学雑誌, 42(1), 12 (1988); [1-18-2] 「人参葉」の生薬学的研究(第2報) *Panax pseudo-ginseng* WALL. の変種に由来する市場品, 難波恒雄, 御影雅幸, 蔡少青, 楼之岑, 田中治, 生薬学雑誌, 42(1), 19 (1988)

1-19 麦門冬: [1-19-1] 麦門冬の生薬学的研究(第3報) *Ophiopogon* を基原とする麦門冬について, 田中俊弘, 水野瑞夫, 野呂征男, 木村康一, 生薬学雑誌, 32(3), 136 (1978); [1-19-2] 麦門冬の生薬学的研究(第4報) *Liriope* を基原とする麦門冬について, 田中俊弘, 水野瑞夫, 野呂征男, 木村康一, 生薬学雑誌, 32(4), 212 (1978)

1-20 百合: [1-20-1] 百合の生薬学的研究(第1報) 外部形態による比較, 下村裕子, 指田豊, 高岸敏子, 寺門秀子, 生薬学雑誌, 36(2), 160 (1982); [1-20-2] 百合の生薬学的研究(第2報) 内部形態の特徴, 下村裕子, 指田豊, 高

岸敏子, 岸本昭子, 古内信子, 生薬学雑誌, 38 (2), 178 (1984)

1-21 覆盆子: [1-21-1] 「覆盆子」の生薬学的研究 (第1報) 韓国産「覆盆子」の基源 (I), 難波恒雄, 小松かつ子, 小野淳子, 鳴橋直弘, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 40 (1), 44 (1986); [1-21-2] 「覆盆子」の生薬学的研究 (第2報) *Rubus coreanus* Miq. の成長に伴う果実, がくおよび花柄の形態変化ならびに本種に由来する韓国産「覆盆子」の成熟度, 難波恒雄, 小松かつ子, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 40 (1), 54 (1986); [1-21-3] 「覆盆子」の生薬学的研究 (第3報) 韓国産「覆盆子」の基源 (II), 難波恒雄, 小松かつ子, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 40 (1), 95 (1986); [1-21-4] 「覆盆子」の生薬学的研究 (第4報) *Rubus crataegifolius* BUNGE の果実, がくおよび花柄の形態変異, 小松かつ子, 御影雅幸, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 40 (2), 203 (1986); [1-21-5] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Fu pen zi” (5) Botanical Origin of “Fu pen zi” from China Mainland, Tsuneo Namba, Katsuko Komatsu and Masayuki Mikage, 生薬学雑誌, 41 (1), 19 (1987); [1-21-6] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Fu pen zi (覆盆子)” (6) On Botanical Origin of “Fu pen zi” from Korea (III), Katsuko Komatsu, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 44 (4), 255 (1990)

1-22 蒲公英: [1-22-1] 「蒲公英」の生薬学的研究 (第1報) 台湾産「蒲公英」の基源 (I), 難波恒雄, 高野昭人, 小松かつ子, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 41 (4), 289 (1987); [1-22-2] 「蒲公英」の生薬学的研究 (第2報) 台湾産「蒲公英」の基源 (II), 難波恒雄, 高野昭人, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 41 (4), 301 (1987); [1-22-3] 「蒲公英」の生薬学的研究 (第3報) *Taraxacum* 属植物の地下部の一般の形態と四国産「蒲公英」の原植物について, 難波恒雄, 高野昭人, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 41 (4), 318 (1987); [1-22-4] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Pu gong ying (蒲公英)” (IV) On the Botanical Origin of “Ho-ko-ei (蒲公英)” from Nagano (長野) and Gunma (群馬) Prefectures, Akihito Takano, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 41 (4), 326 (1987)

1-23 狼毒・大戟: [1-23-1] 漢薬・狼毒・大戟の生薬学的研究 (第2報) 日本産大戟について, 難波恒雄, 米田該典, 故高橋真太郎, 生薬学雑誌, 27 (1), 15 (1973); [1-23-2] 漢薬・狼毒・大戟の生薬学的研究 (第3報) 中国産大戟について, 米田該典, 故高橋真太郎, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 28 (1), 15 (1974); [1-23-3] 漢薬・狼毒・大戟の生薬学的研究 (第4報) 中国の狼毒について, 米田該典, 故高橋真太郎, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 28 (1), 19 (1974); [1-23-4] 漢薬・狼毒・大戟の生薬学的研究 (第5報) 中国産白狼毒について, 難波恒雄, 米田該典, 橋本竹二郎, 故高橋真太郎, 生薬学雑誌, 28 (1), 27 (1974)

1-24 鹿蹄草: [1-24-1] 「鹿蹄草」の生薬学的研究 (第1報) 群馬県産「鹿蹄草」について, 難波恒雄, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 32 (4), 232 (1978); [1-24-2] 「鹿蹄草」の生薬学的研究 (第2報) 長野県産「鹿蹄草」について, 難波恒雄, 御影雅幸, 長江京子, 生薬学雑誌, 34 (2), 97 (1980)

1-25 フウロソウ属・ゲンノショウコ: [1-25-1] 邦産フウロソウ属植物の生薬学的研究 (第1報), 中村輝子, 長沢元夫, 生薬学雑誌, 29 (1), 39 (1975); [1-25-2] 邦産フウロソウ属植物の生薬学的研究 (第2報), 中村輝子, 長沢元夫, 生薬学雑誌, 29 (1), 70 (1975); [1-25-3] Pharmacognostical Studies on *Geranii* Herba. On the Morphology of the Pollen Grains, Futoshi Yamazaki, Mizuo Mizuno and Itsuo Nishioka, 生薬学雑誌, 34 (1), 75 (1980); [1-25-4] Pharmacognostical Studies of Genus *Geranium* (1) Morphology of Epidermal Hairs of Japanese Species in Genus *Geranium*, Shintaro Nomura, Toshihiro Tanaka, Yoichi Hisata, Yukio Noro and Koiti Kimura, 生薬学雑誌, 38 (4), 292 (1984); [1-25-5] Comparative Anatomy of Cultivated *G. nepalense* and *G. thunbergii*, Toshihiro Tanaka, Eiji Sakai, Mizuo Mizuno, Youichi Hisata, Tomoko Kawamura and Yukio Noro, 生薬学雑誌, 41 (4), 265 (1987); [1-25-6] 栽培した *Geranium nepalense* と *G. thunbergii* の葉の形態の季節変化, 田中俊弘, 酒井英二,

水野瑞夫, 生薬学雑誌, 43(2), 93 (1989); [1-25-7] ゲンノショウコの形態と地域変異, 酒井英二, 田中俊弘, 水野瑞夫, 生薬学雑誌, 44(3), 245 (1990)

1-26 *Adiantum* 属: [1-26-1] *Adiantum* 属植物の生薬学的研究(第1報) Series *Caudata* の組織学的分類と関連生薬の基源, 難波恒雄, 御影雅幸, 蔡少青, 薬学雑誌, 108(12), 1154 (1988); [1-26-2] *Adiantum* 属植物の生薬学的研究(第2報) Series *Pedata* 及び *Flabellulata* の組織学的分類と関連生薬の基源, 難波恒雄, 御影雅幸, 蔡少青, 薬学雑誌, 108(12), 1168 (1988); [1-26-3] *Adiantum* 属植物の生薬学的研究(第3報) Series *Venusta* の組織学的分類と関連生薬の基源, 難波恒雄, 御影雅幸, 蔡少青, 薬学雑誌, 108(12), 1179 (1988); [1-26-4] Pharmacognostical Studies on *Adiantum* Plants(IV) On Histotaxonomy of Series *Veneri-Capilliformia* and the Origins of Related Crude Drugs, S.Q. Cai, Masayuki Mikage, Z.C. Lou and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 43(2), 177 (1989)

1-27 *Scopolia* 属: [1-27-1] *Scopolia* 属植物の生薬学的研究(V) 中国産, 北朝鮮産およびヨーロッパ産ロートロンについて, 木島正夫, 野呂征男, 久田陽一, 生薬学雑誌, 31(1), 26 (1977); [1-27-2] *Scopolia* 属植物の生薬学的研究(VI) *Scopolia lurida* DUN. および *Scopolia sinensis* HEMSL. について, 木島正夫, 野呂征男, 久田陽一, 生薬学雑誌, 31(1), 36 (1977); [1-27-3] *Scopolia* 属植物の生薬学的研究(VII) 種子の形態について, 木島正夫, 野呂征男, 久田陽一, 奥田和代, 榊原里江, 生薬学雑誌, 32(1), 33 (1978)

1-28 レンギョウ属: [1-28-1] レンギョウ属果実の比較解剖, 田中俊弘, 酒井英二, 三井成郎, 吉田将士, 西部三省, 生薬学雑誌, 43(4), 300 (1989); [1-28-2] レンギョウ属植物の葉および茎の比較解剖, 田中俊弘, 酒井英二, 三井成郎, 吉田将士, 西部三省, 生薬学雑誌, 44(4), 269 (1990)

1-29 コショウ科: [1-29-1] コショウ科植物の生薬学的研究(第1報) 茎類生類(その1) *Piper* 属(*Chavica* Section) について, 木島正夫, 宮川喬行, 生薬学雑誌, 30(2), 138 (1976); [1-29-2] コショウ科植物の生薬学的研究(第2報) 茎類生類(その2) *Piper* 属(*Eupiper*, *Cubeba* Section) および *Peperomia* 属について, 木島正夫, 宮川喬行, 生薬学雑誌, 30(2), 155 (1976); [1-29-3] コショウ科植物の生薬学的研究(第3報) 葉類生類について, 木島正夫, 宮川喬行, 生薬学雑誌, 31(2), 155 (1977)

1-30 台湾産ラン科生薬: [1-30-1] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (I) On “I-tiam-hong (一点癩)”(1), Tsuneo Namba, Chun-Ching Lin, Tohru Kikuchi and Woei-Song Kan, 生薬学雑誌, 35(2), 138 (1981); [1-30-2] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (II) On “I-tiam-hong (一点癩)”(2), Tsuneo Namba, Chun-Ching Lin and Woei-Song Kan, 生薬学雑誌, 35(2), 145 (1981); [1-30-3] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (III) On “I-tiam-hong (一点癩)”(3), Tsuneo Namba, Chun-Ching Lin and Woei-Song Kan, 生薬学雑誌, 35(2), 153 (1981); [1-30-4] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (IV) On “Chioh-hak (石斛)”(1), Tsuneo Namba and Chun-Ching Lin, 生薬学雑誌, 35(3), 221 (1981); [1-30-5] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (V) On “Chioh-hak (石斛)”(2), Tsuneo Namba and Chun-Ching Lin, 生薬学雑誌, 35(3), 233 (1981); [1-30-6] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (VI) On “Kim-soan-lian (金線連)”(1), Chun-Ching Lin and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 35(4), 262 (1981); [1-30-7] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (VII) On “Kim-soan-lian (金線連)”(2), Chun-Ching Lin and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 35(4), 272 (1981); [1-30-8] Pharmacognostical Studies on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (VIII) On “Chheng-chioh-nng (青石蛋)”, Chun-Ching Lin and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 35(4), 303 (1981); [1-30-9] Pharmacognostical Studies

on the Crude Drugs of Orchidaceae from Taiwan (IX) On “Chheng-thian-liong-thianu (青天竜柱)”, Chun-Ching Lin and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, **36** (1), 98 (1982); [1-30-10] 台湾産ラン科生薬の生薬学的研究 (第10報)「官蘭葉」について, 林 俊清, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **36** (2), 119 (1982)

1-31 北海道産生薬: [1-31-1] 北海道産生薬の生薬植物学的研究 (第1報)「ベニサラサ」の生薬学的研究, 安田真幸穂, 庭田文子, 鹿野美弘, 木島正夫, 生薬学雑誌, **37** (2), 180 (1983); [1-31-2] 北海道産生薬の生薬植物学的研究 (第2報) 道内産エゾムラサキツツジと中国産「満山紅」の生薬学的研究, 安田真幸穂, 五十嵐秀雄, 鹿野美弘, 木島正夫, 生薬学雑誌, **38** (4), 346 (1984); [1-31-3] 北海道産生薬の生薬植物学的研究 (第3報) エゾエンゴサクの栽培 (その1) 発芽と初年度植物について, 安田真幸穂, 鹿野美弘, 木島正夫, 生薬学雑誌, **39** (3), 208 (1985); [1-31-4] 北海道産生薬の生薬植物学的研究 (第6報) エゾエンゴサクの栽培 (その2) 発芽 (補遺) ならびに植物の更新について, 安田真幸穂, 鹿野美弘, 木島正夫, 生薬学雑誌, **41** (3), 200 (1987); [1-31-5] 北海道産生薬の生薬植物学的研究 (第8報) エゾエンゴサクの栽培 (その4) 3年度植物から6年度植物について, 安田真幸穂, 鹿野美弘, 木島正夫, 生薬学雑誌, **42** (3), 208 (1988)

1-32 日本民間薬: [1-32-1] 日本民間薬の生薬学的研究 (第5報)「ハツ目蘭」について, 難波恒雄, 久保道徳, 御影雅幸, 生薬学雑誌, **29** (1), 79 (1975); [1-32-2] 日本民間薬の生薬学的研究 (第7報)「高遠草」について, 難波恒雄, 御影雅幸, 舒 躍中, 徐 国鈞, 生薬学雑誌, **40** (3), 306 (1986); [1-32-3] 日本民間薬の生薬学的研究 (第8報)「イカリソウ根」について, 難波恒雄, 小松かつ子, 岩井正憲, 生薬学雑誌, **45** (2), 109 (1991)

1-33 中国四川省民間薬: [1-33-1] 中国四川省民間薬の生薬学的研究 (第1報) *Oxalis* 属植物由来の薬物について, 難波恒雄, 葉 加南, 小松かつ子, 蔡 少青, 御影雅幸, 生薬学雑誌, **44** (3), 151 (1990); [1-33-2] 中国四川省民間薬の生薬学的研究 (第2報) *Gerbera* 属植物由来の兔耳風について, 葉 加南, 王 天志, 蔡 少青, 小松かつ子, 御影雅幸, 難波恒雄, 生薬学雑誌, **110** (6), 374 (1990); [1-33-3] 中国四川省民間薬の生薬学的研究 (第3報) *Ainsliaea* 属植物由来の兔耳風について, 難波恒雄, 葉 加南, 小松かつ子, 王 天志, 蔡 少青, 御影雅幸, 生薬学雑誌, **110** (6), 383 (1990); [1-33-4] Pharmacognostical Studies on the Folk Medicine in Sichuan Province in China (IV) On “Ye-cai-zi (野菜子)”, Tsuneo Namba, Jia-Nan Ye, Katsuko Komatsu, Shao-Qing Cai, Zhe-Ming Gu and Masayuki Mikage, 生薬学雑誌, **45** (2), 119 (1991)

1-34 台湾産生薬: [1-34-1] 台湾における薬物資源の研究 (1) 台湾北部産「右骨梢」について, 難波恒雄, 久保道徳, 谿 忠人, 植物研究雑誌, **49** (3), 65 (1974); [1-34-2] 台湾における薬物資源の研究 (2)「接骨草」について, 難波恒雄, 久保道徳, 谿 忠人, 植物研究雑誌, **49** (5), 138 (1974); [1-34-3] 台湾における薬物資源の研究 (3)「大小薊」について, 難波恒雄, 久保道徳, 御影雅幸, 植物研究雑誌, **50** (3), 71 (1975); [1-34-4] 台湾における薬物資源の研究 (4)「統天草」について, 難波恒雄, 久保道徳, 御影雅幸, 植物研究雑誌, **50** (6), 180 (1975); [1-34-5] 台湾における薬物資源の研究 (第6報)「本白朮」について, 難波恒雄, 神吉由紀子, 菟原祐喜子, 生薬学雑誌, **32** (4), 242 (1978); [1-34-6] Development of Natural Crude Drug Resources from Taiwan (III) Pharmacognostical Studies on the Crude Drug “Fua-gio-chhau (化石草)”, C.-C. Lin, C.-C. Yang and T. Namba, 生薬学雑誌, **40** (2), 233 (1986); [1-34-7] Development of Natural Crude Drug Resources from Taiwan (IV) Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Han-lian-cao (旱蓮草)” (2), C.-C. Lin, J.-Y. Chen and T. Namba, 生薬学雑誌, **40** (4), 357 (1986); [1-34-8] Development of Natural Crude Drug Resources from Taiwan (V) Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drug “Peh-hue-juwa-chi-chhau (白花蛇舌草)” (1), Chun-Ching Lin, Jen-Yin Chen and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, **41** (3), 180 (1987)

1-35 韓国産生薬：〔1-35-1〕韓国産生薬の研究(第1報)民間薬「九折草」について，難波恒雄，御影雅幸，朴 鍾喜，生薬学雑誌，39(4)，253(1985)；〔1-35-2〕韓国産生薬の研究(第2報)漢薬「香薷」について，難波恒雄，朴 鍾喜，御影雅幸，生薬学雑誌，39(4)，291(1985)；〔1-35-3〕Studies on the Crude Drug from Korea(3) On the Chinese Crude Drug “Di yu(地榆)”，Jong Hee Park, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌，39(4)，301(1985)；〔1-35-4〕Studies on the Crude drug from Korea(4) On the Chinese Crude Drug “Qian cao(茜草)”，J.H. Park, M. Mikage and T. Namba, 生薬学雑誌，40(2)，143(1986)；〔1-35-5〕韓国産生薬の研究(第5報)漢薬「秦艽」について，難波恒雄，朴 鍾喜，御影雅幸，生薬学雑誌，40(2)，224(1986)；〔1-35-6〕韓国産生薬の研究(第6報)民間薬「Och Na Mu Ggeob Jil」について，朴 鍾喜，御影雅幸，難波恒雄，生薬学雑誌，40(3)，295(1986)；〔1-35-7〕韓国産生薬の研究(第7報)民間薬「Jad Na Mu Ip」の基源，御影雅幸，李 奉柱，朴 鍾喜，難波恒雄，生薬学雑誌，45(4)，336(1991)；〔1-35-8〕韓国産生薬の研究(第8報) *Acanthopanax* 属植物に由来する民間薬「Min Gal Pi」について，朴 鍾喜，張 瓊奂，小松かつ子，難波恒雄，生薬学雑誌，46(3)，195(1992)

1-36 東南アジア生薬：〔1-36-1〕Studies on the Medicinal Plants in Southeast Asia III Pharmacognostical Studies on the Thai Drugs, “Dok Champa” and “Dok Champi”(Flowers of *Michelia* species), Masao Konoshima, the late Masakazu Hutoh, Sumiko Kimura, Takeatsu Kimura, Thanomwang Amatayakul, 生薬学雑誌，27(2)，89(1973)；〔1-36-2〕東南アジア生薬の生薬学的研究(IV) タイ生薬 “Phak-phaeo-daeng”(*Trichodesma indicum* R.Br.の根)と中薬紫根(紫草)について，木島正夫，田端 守，水上 元，生薬学雑誌，28(1)，75(1974)；〔1-36-3〕東南アジア生薬の生薬学的研究(V) タイ生薬 “Kra-chai”(*Boesenbergia pandurata* SCHLECHTERの根茎および根)の生薬学的研究，木村孟淳，木村寿美子，木島正夫，生薬学雑誌，29(2)，166(1975)；〔1-36-4〕東南アジア生薬の生薬学的研究(第6報) タイ国 *Alpinia* 属根茎生類の剖見，木島正夫，本多義昭，小野孝彦，生薬学雑誌，30(2)，164(1976)；〔1-36-5〕東南アジアにおける生薬の比較研究 第XVIII報 白檀のうちわおよび *Akar wangi*の基原植物について，新田あや，植物研究雑誌，64(6)，176(1989)

1-37 ブラジル・ネパール生薬：〔1-37-1〕ブラジル生薬の研究(第1報) ムイラブアマ，豊田敦子，二宮ルリ子，小林尚子，川西和子，菟原祐喜子，加藤 篤，橋本庸平，生薬学雑誌，33(2)，57(1979)；〔1-37-2〕ブラジル生薬の研究(第2報) 白色トロン，豊田敦子，小林尚子，川西和子，菟原祐喜子，加藤 篤，橋本庸平，生薬学雑誌，33(2)，117(1979)；〔1-37-3〕Studies on the Nepalese Crude Drug(VII) On the Variation in the Morphological Appearances and the Alkaloid Contents of the Herbal Stem of *Ephedra gerardiana* WALL. according to the Differences of Habitats, Masayuki Mikage, Akihito Takano, Hisanori Jin, Tsuyosi Tomimori and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌，41(3)，209(1987)

1-38 花 粉：〔1-38-1〕ガマの花粉4集粒における数種の移行形列について，佐橋紀男，幾瀬マサ，植物研究雑誌，49(2)，54(1974)；〔1-38-2〕香港市場品“蒲黄”の生薬学的研究，瀧 和子，山崎 太，水野瑞夫，生薬学雑誌，30(1)，29(1976)；〔1-38-3〕ウェルウイッチアの花粉粒形態，佐橋紀男，武田敏子，幾瀬マサ，植物研究雑誌，51(9)，283(1976)；〔1-38-4〕生薬中に含まれる花粉の形態学的研究，幾瀬マサ，佐橋紀男，武田敏子，生薬学雑誌，31(2)，121(1977)；〔1-38-5〕生薬中に含まれる花粉の形態学的研究(第2報)，幾瀬マサ，佐橋紀男，大倉陽子，生薬学雑誌，33(1)，21(1979)；〔1-38-6〕Pollen Morphological Studies on Some Herbaceous Drugs(III), Norio Sahashi, Masa Ikuse, Akitaka Matsuda and Yoko Ohkura, 生薬学雑誌，34(3)，187(1980)；〔1-38-7〕*Swertia* 属花粉の形態学的研究，瀧 和子，山崎 太，水野瑞夫，久保道德，生薬学雑誌，30(2)，118(1976)；〔1-38-8〕Morphological Studies on the Pollen Grains of the Chinese Crude Drug “Huaihua”，Mizuo Mizuno, Futoshi Yamazaki and Kazuko Taki, 生薬学雑誌，32(3)，129(1978)；〔1-38-9〕数種の花類生薬の鑑別に関する研究－花粉形態について，山崎 太，西岡五夫，生薬学雑誌，34(4)，259

(1980); [1-38-10] 数種の草類生薬の鑑別に関する研究—花粉形態について, 山崎 太, 西岡五夫, 生薬学雑誌, **34**(4), 266 (1980); [1-38-11] アサの生理種の鑑別に関する研究—各生理種の花粉末形態について, 山崎 太, 西岡五夫, 生薬学雑誌, **34**(4), 271 (1980)

1-39 生薬組織中の結晶: [1-39-1] 高周波酸素プラズマによる低温灰化の生薬学的研究への応用—ウワウルシとその代用品コケモモならびに類似品のシュウ酸カルシウムによる鑑別法, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **91**(10), 1047 (1971); [1-39-2] 高周波酸素プラズマによる低温灰化の生薬学的研究への応用—センナ葉およびツバキの葉の灰化組織中のシュウ酸カルシウムの観察, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **91**(8), 828 (1971); [1-39-3] 高周波酸素プラズマによる低温灰化の生薬学的研究への応用—インドゴムノキ, カナムグラおよびキツネノマゴの葉の灰化組織における炭酸カルシウムの観察, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **91**(8), 845 (1971); [1-39-4] 高周波酸素プラズマによる低温灰化の生薬学的研究への応用—ホウライチクの葉, トクサおよびイヌドクサの茎の灰化組織における珪酸体の観察, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **91**(8), 850 (1971); [1-39-5] 高周波酸素プラズマによる低温灰化の生薬学的研究への応用—灰化像の観察法, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **91**(8), 890 (1971); [1-39-6] 高周波酸素プラズマによる低温灰化の生薬学的研究への応用—ウワウルシとコケモモのシュウ酸カルシウムによる鑑別法, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **91**(8), 907 (1971); [1-39-7] シダレヤナギの葉の生長とシュウ酸カルシウム結晶形成の様式, 梅本光一郎, 穂積啓一郎, 薬学雑誌, **93**(8), 1069 (1973); [1-39-8] ユキノシタ科アジサイ属植物葉中のシュウ酸カルシウム結晶パターン, 梅本光一郎, 薬学雑誌, **94**(1), 110 (1974); [1-39-9] 日本産ユキノシタ科植物における結晶性無機成分の化学組織ならびに形態について, 梅本光一郎, 薬学雑誌, **94**(12), 1627 (1974); [1-39-10] 走査電子顕微鏡の生薬学的研究への応用(1) 試料の作製法および単子葉植物中の長針晶について, 野呂征男, 久田陽一, 奥田和代, 川村智子, 生薬学雑誌, **46**(2), 115 (1992)

1-40 その他各種生薬: [1-40-1] 中国の生薬“毛麝香”について, 久内清孝, 菅谷愛子, 生薬学雑誌, **25**(2), 83 (1971); [1-40-2] 地蜈蚣草と倒地蜈蚣について, 水野瑞夫, 奥田ひとみ, 植物研究雑誌, **46**(6), 185 (1971); [1-40-3] 淫羊藿の生薬学的研究補遺(第3報), 松隈貞雄, 菟原祐喜子, 生薬学雑誌, **26**(1), 67 (1972); [1-40-4] 中葯蛇床子に関する研究, 石 貴徳, 新田あや, 植物研究雑誌, **47**(11), 326 (1972); [1-40-5] 漢薬・絡石藤の生薬学的研究(第1報) 市販の絡石藤について, 米田該典, 松本優子, 生薬学雑誌, **26**(2), 96 (1972); [1-40-6] 漢薬藁本の生薬学的研究(第2報) 国産藁本について, 木島正夫, 新田あや, 石 貴徳, 生薬学雑誌, **27**(2), 129 (1973); [1-40-7] ハクチョウゲの花の変異について, 木村康一, 嶋田玄弥, 野村新太郎, 久田陽一, 田中俊弘, 植物研究雑誌, **48**(4), 117 (1973); [1-40-8] 最近の輸入柴胡について, 木島正夫, 宮川喬行, 滝上雅博, 生薬学雑誌, **28**(2), 161 (1974); [1-40-9] 市場品漢薬「良姜」の剖見, 木島正夫, 本多義昭, 小野孝彦, 生薬学雑誌, **30**(1), 18 (1976); [1-40-10] 大麻の研究(第3報) 発芽後の発育阻害を目的とした⁶⁰Co γ 線照射種子からの幼植物について, 下村裕子, 栗山悦子, 富沢厚子, 薬学雑誌, **96**(1), 75 (1976); [1-40-11] 漢薬「夏枯草」の生薬学的研究, 難波恒雄, 久保道徳, 御影雅幸, 生薬学雑誌, **30**(2), 171 (1976); [1-40-12] 漢薬「菖蓄」の生薬学的研究(第1報)「射干」と「菖蓄」の混乱について, 難波恒雄, 御影雅幸, 橋場研治, 生薬学雑誌, **31**(2), 188 (1977); [1-40-13] セリ科植物の成分に関する研究(第1報) エゾノシシウド *Coelopleurum lucidum* L. var. *Gmelini* (DC) HARA の果実について, 佐野清教, 石 貴徳, 新田あや, 薬学雑誌, **97**(6), 661 (1977); [1-40-14] 生薬の鑑別に関する研究(第1報) Tropicine alkaloid 含有葉類生薬, 浜田善利, 村上誠愨, 西岡五夫, 生薬学雑誌, **32**(4), 199 (1978); [1-40-15] 骨碎補の生薬学的研究(第1報), 田中靖子, 三浦一水, 生薬学雑誌, **32**(4), 254 (1978); [1-40-16] 市場品桃仁および杏仁の比較組織学的研究, 久保道徳, 勝城忠久, 谿 忠人, 多田一郎, 有地 滋, 生薬学雑誌, **33**(1), 1 (1979); [1-40-17] イヌザンショウの生薬学的研究(第1報) 葉の内部形態と葉, 果実の粉末について, 下村裕子, 指田 豊, 寺門

秀子, 生薬学雑誌, 33(1), 43 (1979); [1-40-18] 市場品漢薬「紫菀」の生薬学的研究, 山本久子, 上裕和輔, 木島正夫, 生薬学雑誌, 33(4), 236 (1979); [1-40-19] クロウメドモキ属の生薬学的研究(1), (2), (3), (4), (5), (6), (7), (8), (9), (10), 岡田 稔, 植物研究雑誌, 50(11), 342 (1975); 51(1), 16 (1976); 51(3), 82 (1976); 51(7), 204 (1976); 51(12), 388 (1976); 52(4), 119 (1977); 52(5), 154 (1977); 52(8), 235 (1977); 52(10), 309 (1977); 52(11), 327 (1977); [1-40-20] コナラ属樹皮の剖見(1), (2), (3), (4), 岡田 稔, 植物研究雑誌, 53(10), 313 (1978); 53(12), 373 (1978); 54(4), 106 (1979); 55(2), 54 (1980); [1-40-21] ニオイハンゲの塊茎と本邦市場の水半夏と称する漢薬について, 樋口正視, 岡田 稔, 植物研究雑誌, 55(10), 314 (1980); [1-40-22] *Swertia* 属植物の種間雑種に関する研究(I), 難波恒雄, 林 俊清, 吉崎正雄, 宮沢洋一, 萩原博司, 生薬学雑誌, 36(3), 269 (1982); [1-40-23] 漢薬・苦参の生薬学的研究(第2報) 本邦産, 韓国産および中国産苦参について, 太田長世, 三野芳紀, 田中和美, 生薬学雑誌, 36(4), 339 (1982); [1-40-24] セリ科生薬「羌活」の生薬学的研究(第1報), 神田博史, 佐竹元吉, 生薬学雑誌, 37(2), 165 (1983); [1-40-25] 'Orang Asli'の民間薬 "Tepas Terbang" について, 新田あや, 薬学雑誌, 104(3), 256 (1984); [1-40-26] 山茱萸の生薬学的研究, 下村裕子, 指田 豊, 田中とく江, 中村 誠, 薬学雑誌, 106(10), 878 (1986); [1-40-27] Pharmacognostical Studies on the Related Articles of Kudingcha (苦丁茶) in Hong Kong Market, Paul P.H. But, Gordon K.H. Ng and Y.C. Kong, 生薬学雑誌, 39(1), 46 (1985); [1-40-28] 蒼耳子の生薬学的研究, 浜田善利, 生薬学雑誌, 41(3), 230 (1987); [1-40-29] Pharmacognostical Studies on the Chinese Drug "Jinyinhua (金銀花)" (III) Botanical Origins of Well Circulating Drug in China Mainland, Tsuneo Namba, Masayuki Mikage, Katsuko Komatsu, Luo-Shan Xu and Guo-Jun Xu, 生薬学雑誌, 42(1), 65 (1988); [1-40-30] 「営実」の生薬学的研究(第1報) 走査顕微鏡による大型種「営実」の基源解明, 御影雅幸, 小松かつ子, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 42(4), 284 (1988); [1-40-31] 茴香の生薬学的研究, 下村裕子, 指田 豊, 徳本廣子, 岡沢香津子, 生薬学雑誌, 43(1), 19 (1989); [1-40-32] 生薬資源の研究(第3報) 栽培木香の品質について, 米田該典, 須磨一夫, 山形悦子, 畠山好雄, 熊谷健雄, 生薬学雑誌, 43(1), 59 (1989); [1-40-33] 水梔子の基原植物とその新学名, 謝 宗万, 李 燕立, 布目慎有, 三橋 博, 植物研究雑誌, 65(3), 121 (1990); [1-40-34] *Polygonatum* 属植物の生薬学的研究(第1報) チベット生薬 "Ra-mNye" について, 難波恒雄, 小松かつ子, 劉 玉萍, 御影雅幸, 生薬学雑誌, 45(2), 99 (1991); [1-40-35] *Dicentra spectabilis* のアルカロイド細胞と含有アルカロイドについて, 金 鐘源, 高尾樞雄, 市丸百代, 加藤 篤, 生薬学雑誌, 46(2), 109 (1992)

2. 動物性生薬

2-1 貝類生薬: [2-1-1] 貝歯の生薬学的研究(第2報) 台湾および香港市場品の同定, 浜田善利, 庄司省三, 村上誠愨, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 36(3), 228 (1982); [2-1-2] 貝歯の生薬学的研究(第3報) 薬用とするタカラガイ類の検索, 浜田善利, 村上誠愨, 御影雅幸, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 36(3), 250 (1982); [2-1-3] Pharmacognostical Studies on "Beichi (貝歯)" (4) Investigation on the Olive Shells Used as "Zibeichi (紫貝歯)", Toshiyuki Hamada, Shozo Shoji, Nobuyoshi Murakami, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 36(4), 356 (1982); [2-1-4] Pharmacognostical Studies on "Shijueming (石決明)" (2) Investigation on the Commercial Drugs on Taiwan and Hong Kong Market, Toshiyuki Hamada, Nobuyoshi Murakami, Masayuki Mikage, Shinyu Nunome and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 37(2), 127 (1983); [2-1-5] Pharmacognostical Studies on the Molluscan Drugs (XIII) Original Bivalves of "Walengzi (瓦楞子)" on Hong Kong Market, Toshiyuki Hamada, Nobuyoshi Murakami, Shinyu Nunome and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 37(4), 391 (1983)

2-2 昆虫類生薬: [2-2-1] 昆虫と漢薬の生薬学的研究(I) 虻虫について, 難波恒雄, 清水岑夫, 稲垣建二, 難波健輔,

中村秀雄, 生薬学雑誌, 36(4), 289 (1982); [2-2-2] 昆虫和漢薬の生薬学的研究(第2報) 斑蝥について, 稲垣建二, 布目慎勇, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 37(3), 255 (1983); [2-2-3] 昆虫和漢薬の生薬学的研究(第3報) 紅娘子について, 難波恒雄, 稲垣建二, 布目慎勇, 生薬学雑誌, 37(3), 262 (1983); [2-2-4] 昆虫和漢薬の生薬学的研究(第4報) 蜣螂について, 難波恒雄, 稲垣建二, 生薬学雑誌, 37(4), 397 (1983); [2-2-5] 昆虫和漢薬の生薬学的研究(第5報) 蜜虫と竜虱について, 稲垣建二, 御影雅幸, 布目慎勇, 難波恒雄, 生薬学雑誌, 38(1), 70 (1984); [2-2-6] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drugs Derived from Insects(VI) On the Original Insects of Xi-shuai(蟋蟀), Kennji Inagaki, Masayuki Mikage and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 38(1), 83 (1984); [2-2-7] Pharmacognostical Studies on the Chinese Crude Drugs Derived from Insects(VII) On the Original Insects of Qicao(螬螂), Tsuneo Namba and Kenji Inagaki, 生薬学雑誌, 38(1), 118 (1984); [2-2-8] Pharmacognostical Studies on the Crude Drug "Hothau-phang" of Insects from Taiwan, C.C. Lin, M.H. Yen and Tsuneo Namba, 生薬学雑誌, 43(3), 235 (1989)

3. 生薬製剤鑑定

3-1 粉末生薬: [3-1-1] 局方粉末生薬の研究(第10報) (5) オウギ末, (6) タクシャ末, 下村裕子, 仁科玲子, 生薬学雑誌, 26(2), 90 (1972); [3-1-2] 粉末生薬の研究(第1報) 菌類生薬中の結晶, 田中靖子, 生薬学雑誌, 44(1), 5 (1990); [3-1-3] 粉末生薬の研究(第2報) 扁豆および類縁生薬, 田中靖子, 生薬学雑誌, 44(3), 207 (1990)

3-2 製剤中の生薬鑑定: [3-2-1] 中成薬・牛黄上清丸の顕微鏡鑑定研究, 徐 国鈞, 徐 珞珊, 田中俊弘, 生薬学雑誌, 38(4), 287 (1984); [3-2-2] 製剤中に配合された羅布麻葉の顕微鏡鑑定研究, 田中俊弘, 酒井英二, 堤 典子, 水野瑞夫, 佐久嶋明世, 西部三省, 生薬学雑誌, 42(1), 28 (1988); [3-2-3] 中成薬・牛黄清心丸の顕微鏡鑑定研究, 田中俊弘, 伊藤寿美, 堤 典子, 水野瑞夫, 徐 珞珊, 徐 国鈞, 生薬学雑誌, 42(2), 105 (1988); [3-2-4] 実母散配合生薬の顕微鏡鑑定, 田中俊弘, 酒井英二, 加藤信子, 高田敦士, 生薬学雑誌, 43(3), 242 (1989); [3-2-5] 製剤に含まれる粉末生薬の同定(1) 桂枝茯苓丸の顕微鏡写真, 下村裕子, 指田 豊, 田中とく江, 植物研究雑誌, 60(6), 186 (1985); [3-2-6] 製剤に含まれる粉末生薬の同定(2) 桂皮末・牡丹皮末・芍薬末・桃仁末・茯苓末の顕微鏡写真, 下村裕子, 指田 豊, 田中とく江, 植物研究雑誌, 60(8), 243 (1985); [3-2-7] 製剤に含まれる粉末生薬の同定(3) 八味地黄丸, 下村裕子, 指田 豊, 徳本廣子, 植物研究雑誌, 64(8), 247 (1989)

参考文献

- 1) 厚生省薬務局監視指導課監修: 漢方GMP解説, 薬事日報社, 東京(1988)
- 2) 平成4年3月31日薬監第23号厚生省薬務局監視指導課長通知: 「一般用漢方・生薬製剤の製造管理及び品質管理に関する自主基準について」
- 3) 東 丈夫, 名越◎朗, 村上光太郎: 徳島大学薬学部研究年報, 20, 12 (1971)